

TOPIC

## 大戸斉副学長が秋篠宮皇嗣妃殿下と懇談



### 大戸斉副学長が 秋篠宮皇嗣妃殿下と 懇談になりました

第59回献血運動推進全国大会で昭和天皇記念学術賞を受賞した大戸斉副学長は、令和6年3月18日(月)に千葉県赤十字会館で秋篠宮皇嗣妃殿下と懇談になりました。

写真左から2人目から秋篠宮皇嗣妃殿下  
大戸斉副学長

妃殿下は、名誉副総裁を務めている日本赤十字社の関連施設を視察し、先の全国大会で顕著な功績があった個人や団体の受賞者と懇談しました。この中で大戸副学長も参加しました。

懇談の際、大戸斉副学長は国内の研究者とともに世界で37番目の血液型「KANNO(カノ)」を発見した経緯などを説明しました。

妃殿下からは、「今後も研究が進展し、新たな

血液型についての研究がより良い方向へ進むことを期待します」とのお言葉をいただきました。

#### 感謝を込めて 福島研究者支援を

大戸副学長は、「この貴重な経験に感謝し、今後も福島研究者を支援していきたい」と述べ、受賞を振り返りました。



懇談風景

## NEWS

### 小宮ひろみ先生、おめでとうございます! 益々のご活躍を祈念しております! ~女性の健康ナショナルセンター(仮称)のセンター長候補者(理事長特任補佐)就任~

令和6年3月31日まで本学の附属病院性差医療センター教授・部長を務められた小宮ひろみ先生が、4月1日付で女性の健康ナショナルセンター(仮称)のセンター長候補者となる理事長特任補佐に就任されることが、国立成育医療研究センターHPで発表されました。

「女性の健康」に関する司令塔機能を担う女性の健康ナショナルセンター(仮称)は、国立成育医療研究センター内に、令和6年度中に設立予定です。

同センター(仮称)の設置により、女性特有の疾患や性差医療に関する研究開発等を推進し、女性が人生の各段階で様々な健康課題を有していることを社会全体で共有し、女性が生涯にわたり健康で活躍できる社会を目指すことを国立成育医療研究センターでは発表しています。

発表当日、小宮ひろみ先生は「国立成育医療研究センターに女性の健康に関するナショナルセンター機能を持たせるという新たなミッションに参画することについて、大変光栄に思います。

女性のライフステージと性差を意識しながら、これまでの自分の経験などを活かし、『女性が生涯にわたり健康で活躍できる社会を目指す』ことに貢献できるよう努めて参ります」と抱負を述べました。

女性の健康  
ナショナルセンター(仮称)  
に関する発表は  
こちらから



Web site

(国立成育医療研究センターHP)





## 医学部同窓会より、卒業生3名に令和5年度「光が丘賞」を贈呈

医学部同窓会より贈られる卒業時表彰「光が丘賞」の表彰式が、令和6年3月22日(金)に開催されました。

「光が丘賞」は、学業識見に優れた者、スポーツ、芸術及び課外活動で特筆すべき成果を挙げた卒業生を褒賞することを目的としており、将来本学の発展に寄与することが期待される

と認められた学生に贈られるものです。

令和5年度は、成績優秀者として橋本明佑美さん、香村和哉さん、星野凧沙さんの3名が選ばれました。このうち橋本さんには卓越して優秀な成績を収めたとして後藤新平奨励賞も贈られました。

橋本さんは「総合診療科で幅広い経験を積



写真左から、香村和哉さん 橋本明佑美さん 星野凧沙さん

み、どんな事案にも対応できる医師になる」、香村さんは「福島の地域医療に貢献したい」、星野さんは「将来は救急医療に携わりたい。身体だけでなく心も診れる医師を目指す」とそれぞれ今後の抱負を述べました。

## NEWS01 IAEA Rays of Hope 日本アンカーセンター設置に関する調印式に本学教員が参加

本学など放射線医学を先導する国内の16の大学・研究機関・病院は、国際原子力機関(以下、IAEA)と連携してアジアを中心とした国々のがん治療を支援する「日本アンカーセンター」を設立しました。

センター設置に関する調印式は令和6年3月14日(木)に本学福島駅前キャンパスで行われ、IAEAのグロッシ事務局長とセンターの総合コーディネーターを務める本学アスチン核種治療研究講座中野隆史教授が調印書を交わしました。

アンカーセンターは、発展途上国のがん治療

の質向上などを目指すIAEAの取組「Rays of Hope(レイズ・オブ・ホープ)」を推進するためにIAEAとの連携の中核を担う組織です。

日本アンカーセンターでは、センターを構成する各組織の専門性を活かし、「放射線腫瘍学・医学物理学ネットワーク」と「核医学・放射線診断ネットワーク」という2つの分野を設立しています。

これにより、各組織の知見や技術を結集し、医療が発展途上にある国の人材育成に貢献し、医療面での国際格差を解消することを目指しています。

本学は、中野隆史教授がセンターの総合コーディネーターを務めることに加えて、健康リスクコミュニケーション学講座の田巻倫明教授がIAEAとの連絡担当を務めるなど、IAEA側との調整の中核を務めます。



## NEWS02 様々な思いの「前進」願い、キャンドル点灯



令和6年3月11日(月)、本学保健科学部の教員・学生が福島駅前キャンパスにて、東日本大震災で犠牲になられた方々へ哀悼の誠を捧げるため、1階エントランスホールにLEDキャンドルを用いて「前進」の文字を描きました。

福島県主催の令和5年度「3.11ふくしま追悼

復興祈念行事「キャンドルナイト」の連携企画として昨年に続いて行いました。

中心となって事業を企画した同学部診療放射線科学科3年の佐藤凧太郎さんと鳴山嵩志さんは「震災復興への思いを絶やさず、被災地に思いをはせるきっかけにしたい」と述べました。

## NEWS03 高齢者のための生活機能測定会を開催しました

令和6年3月27日(水)に福島駅前キャンパスにて、本学公開講座(福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ主催)として「高齢者のための生活機能測定会」を保健科学部介護予防研究チーム監修のもと開催しました。

本測定会では65歳以上の方を対象に本学の機器を使用し「脳の元気度」、「歩行機能」、「血管年齢」など、9つの項目を測定し、測定後に分析結果の簡単な説明とフィードバックを

行いました。

チームの一員である理学療法学科の柴喜崇教授は「早期に自分の欠点、早く老化が訪れている部分を知り、トレーニングすることで、健康寿命を伸ばすことができる」と測定会の意義を述べました。

介護予防研究チームは、今後も県内各地で測定会を開き、県民の健康長寿につなげていく考えです。

